

行政評価事務事業一覧

【まちづくりの目標1_子育て・教育】

施策 1-2_家庭、地域の教育力の向上

基本計画		事業番号	細事業名称
1-02-02	学校・家庭・地域の連携協働の推進	03203_01	放課後児童クラブ運営事業
1-02-02	学校・家庭・地域の連携協働の推進	03203_03	放課後児童クラブ障がい児対策事業
1-02-02	学校・家庭・地域の連携協働の推進	10618_01	学校・家庭・地域連携推進事業
1-02-02	学校・家庭・地域の連携協働の推進	10642_01	運動部活動地域移行実証事業
1-02-03	青少年健全育成の推進	10101_16	はたちの集い開催事業

令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報		事後評価	2024	03203_01			
事業名(行目名称)		放課後児童対策費	細事業名 放課後児童クラブ運営事業				
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策 家庭、地域の教育力の向上				
	基本計画	学校・家庭・地域の連携協働の推進	担当課 学校教育課				
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	就労している保護者とその児童(小学校1～6年生)		数値 31クラブ			
	手段(どうやって)	市内15校区、31クラブを開設しています。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	就労又は疾病のため放課後児童クラブの入会を希望する保護者が、安心して預けられるような児童の居場所づくりに努める。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)		令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		139,778	195,319	195,319	174,691		
財源	県・国支出金	64,983	101,672	101,672	87,934		
	地方債		0	0			
	その他	42,819	42,811	42,811	43,836		
	一般財源	31,976	50,836	50,836	42,921		
<ul style="list-style-type: none"> ○報酬 134,164千円 ○職員手当等 22,294千円 ○共済費 25,441千円 ○旅費 3,870千円 ○需用費 5,675千円 ○役務費 2,895千円 ○使用料及び賃借料 480千円 ○備品購入費 500千円 							
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
開設クラブ数		目標値	31	31	31	31	31
		実績	31	31	31	31	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
昨年度と比較すると指導員の応募が増えてきているが、定数確保には至っていないため、昨年度と同様に指導員の確保が課題である。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
児童の健全育成、保護者の就労支援のために今後も事業を継続していく必要がある。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
児童の健全育成、保護者の就労支援のために今後も事業を継続していく必要がある。							

令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	03203_03		
事業名(行目名称)		放課後児童対策費	細事業名	放課後児童クラブ障がい児対策事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	家庭、地域の教育力の向上			
	基本計画	学校・家庭・地域の連携協働の推進	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	就労している障がい児(小学校1～6年生)をもつ保護者とその児童		数値	5クラブ		
	手段(どうやって)	加配指導員を配置する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	加配指導員を配置し、障がい児の受け入れ環境を整える。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		2,345	9,184	9,184	2,507	○報酬 6,285千円 ○職員手当等 1,282千円 ○共済費 1,365千円 ○旅費 252千円	
財源	県・国支出金	1,562	6,122	6,122	1,410		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
一般財源		783	3,062	3,062	1,097		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
障がい児童数			目標値	70	70	70	70
			実績	68	68	68	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
普通学級の児童の中にも配慮が必要な児童が増えてきており、放課後デイサービスを利用するには手続き等困難な場合があるため、結果的に児童がクラブを利用することが多くなる。 今後も引き続き受け入れ態勢を構築していく必要がある。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
インクルーシブ教育の観点からも利用者の要望に沿った支援を行う必要がある。そのためには配慮を要する児童を安全にお預かりするために今後も事業を継続していく。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
インクルーシブの観点からも、利用者の要望に沿った支援を行う必要があるため、今後も加配指導員を配置する必要がある。							

令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10618_01		
事業名(行目名称)		学校・家庭・地域連携推進事業費	細事業名	学校・家庭・地域連携推進事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	家庭、地域の教育力の向上			
	基本計画	学校・家庭・地域の連携協働の推進	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	公立小中学校	数値	27校			
	手段(どうやって)	社会総がかりで子どもたちを育むために、全ての公立小中学校にコミュニティ・スクールを導入し、学校・家庭・地域の連携・協働体制を確立することで、地域に開かれた特色ある学校づくりを進める。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	地域で学校を支援する仕組みづくりを促進し、子どもたちの多様な学びを支援するだけでなく、地域住民の生涯学習や自己実現に資するとともに、学校を支援する活動を通じて地域のつながり・絆を強化し、地域の教育力の向上を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		27,402	32,653	32,653	27,999	○報償費 600千円 ○役員費 406千円 ○委託料 31,647千円	
財源	県・国支出金	16,452	18,988	18,988	17,096		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
一般財源		10,950	13,665	13,665	10,903		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
コミュニティ・スクール数(累計)			目標値	27	27	27	27
			実績	27	27	27	27
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
地域人材の育成・配置等により、授業支援などで教職員の業務改善につなげていきたい。また、市内の取組内容を情報共有し、さらなる支援の充実を図ることが重要である。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
各校区の取組事例を紹介し、全市的なコミュニティ・スクールの推進と運営の充実を図る。学校・家庭・地域の連携や協力体制の強化を図り、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
各校の取組や課題を共有するための協議会を開催する等、今後も各校の特色ある取組の充実につながる支援を行っていく。							

令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10642_01		
事業名(行目名称)		運動部活動地域移行実証事業費	細事業名	運動部活動地域移行実証事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	家庭、地域の教育力の向上			
	基本計画	学校・家庭・地域の連携協働の推進	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	保護者(中学生)	数値	3,110世帯			
	手段(どうやって)	地域移行が可能な部活動について、モデル事業の実施数を増やし、地域移行を推進する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	公立中学校の部活動の地域移行を推進する。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		695	2,047	2,047	359	○報酬 1,606千円 ○旅費 278千円 ○需用費 105千円 ○役員費 58千円	
財源	県・国支出金	695	2,047	2,047	359		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	0	0	0	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
		目標値		2	3	3	5
		実績		—	2	3	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
モデル事業の実施クラブについては数が増えてくるとともにクラブの運営状況などの精査の必要性が出てくる。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
引き続き実証事業を行うため、現状のまま実施を継続する。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和6年度)	A: 計画通りに事業を進めることが適当				
実証事業のうちバレーボールについては、学校体育と社会体育の合併に向けた取り組みを継続しており、今後の地域展開の重要なモデルケースとなりうる実証事業である。バスケットボールについては、市内で活動を希望する生徒が、市外の地域クラブへ所属するしか選択肢がないという状況を踏まえ、そういった生徒の受け皿となるため、令和6年6月に発足したモデルケースとなる。陸上競技については中学生だけでなく、小学生も参加し、指導者も高校のベテラン指導者や日本陸上競技連盟の公認ジュニアコーチの資格取得者も在籍、会員数も増加傾向にあり、クラブ内の競技力も向上しており、地域展開が目指す姿となっている。							

令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10101_16		
事業名(行目名称)		青少年育成強化費	細事業名	はたちの集い開催事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	家庭、地域の教育力の向上			
	基本計画	青少年健全育成の推進	担当課	社会教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)			数値			
	手段(どうやって)	成人式として実施してきた式典について、改正民法施行後、成年年齢が20歳から18歳に引き上げられたことに伴い、令和4年度からも、名称を「はたちの集い」に変更し、これまでどおり20歳の方を対象に実施する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	式典を実施することによって、20歳という人生の門出を市全体で祝い励ますよう盛り上げるとともに、改めて郷土「新居浜」に愛着を持つことができる機運の醸成を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		227	239	239	215		
財源	県・国支出金	0	0	0	0	○報償費 55千円 ○需用費 98千円 ○役務費 86千円	
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	227	239	239	215		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
参加率		目標値	78	78	1月実施	78	78
		実績	65	62		70	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	手段を改善する				
<p>これまでに実施したアンケート等により、様々な理由により会場に足を運べない対象の方が居ることがわかった。そのことから、式典のオンライン配信の実施を検討し、より対象者同士の繋がる場を提供することを検討する。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>予算は現状維持とするが、式典のオンライン配信やSNSを用いて、会場に来られなかった方も含めた対象者同士が繋がる場を提供する等、時流に沿った「はたちの集い」を盛り上げる仕組みづくりに取り組んでいく。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)		A: 計画通りに事業を進めることが適当				
<p>令和6年度は、会場に足を運べない方でもオンライン参加ができるように、市公式YouTubeチャンネルにて当日の式典の様子のライブ配信を行ったほか、当日の様子をビデオ撮影したものを市公式YouTubeチャンネルや市のHPで公開した。また、昨年度好評だったフォトスポットの設置を今年度も実施し、会場内のロビーにニイハマ写真部フォトコンテストの写真を掲示するなど、「はたちの集い」を盛り上げる仕組みづくりに取り組んだ。 令和7年度は、新居浜みらい会議2025「高校生政策アイデアコンテスト」において、若者と創る「はたちの集い」記念式典を課題として提案している。年の近い若者の視点での企画立案により、参加者が郷土「新居浜」に愛着を持つことができるような式典を目指していく。</p>							